

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022 Powered by Hankook 第2戦 NAPAC 富士SUPER TEC 24時間レース

REPORT



ご挨拶

2022年現在、日本で唯一の24時間レースとして開催しているFUJI SUPER TEC24時間レースは5周年を迎えました。2018年に24時間へと姿を変え始まった本大会はこの5年間で24時間レースならではの様々なドラマを生みしました。

この「FUJI SUPER TEC24時間レース」では1Day開催のレースでは決して見ることのできない景色を見ることができます。それはチームの総力をかけた24時間の熱いバトルだけではなく、アウトドアをしながら家族や仲間たちと楽しみながら観戦する、さながら海外の伝統的なレースを感じる光景も含まれます。

そのような光景を今後も日本で見続けられるように、より多くのお客様に楽しんでいただけるよう、今後も富士スピードウェイは大会をサポートしていただいているパートナー皆様と共に歩んでいきます。

2018



2019



2020



2021





- 名 称 : ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022 Powered by Hankook 第2戦
NAPAC 富士SUPER TEC 24時間レース
- 日 程 : 2022年 6月3日 (金) 予選
2022年 6月4日 (土) ~ 5日 (日) 決勝
- 主 催 : 富士スピードウェイ株式会社 / FISCOクラブ (FISCO-C)
- 公 認 : 一般社団法人日本自動車連盟 (JAF)
- 認 定 : スーパー耐久機構 (STO) / Doモータースポーツアソシエーション (DMA)
- 特別協賛 : 一般社団法人 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会 (NAPAC)
- 後 援 : 静岡県小山町 / 御殿場市 / 裾野市 / 公益社団法人静岡県観光協会
小山町観光協会 / 一般社団法人御殿場市観光協会
一般社団法人裾野市観光協会 / 小山町モータースポーツ協力会 / 静岡朝日テレビ

[観客動員数]

- 6月3日 (金) : 4,500人
- 6月4日 (土) : 16,900人
- 6月5日 (日) : 16,700人
- 3日間合計 : 38,100人 ※過去最高動員

[メディア概要]

- 取材者数 : 57媒体、268人

■ テレビ ON AIR

[JSPORTS/オンデマンド]

- ・スタート : 6月4日 (土) 14:30~20:30 生放送 / LIVE配信
- ・夜~朝① : 6月4日 (土) 20:25~27:00 配信限定LIVE
- ・夜~朝② : 6月5日 (日) 2:55~10:05 配信限定LIVE
- ・ゴール : 6月5日 (日) 10:00~15:45 生放送 / LIVE配信

[フジテレビ]

- ・6月6日 23:40~0:25 「FNN Live News α」

[TBS]

- ・6月4日 4:00~4:40 「TBS NEWS」
- ・6月4日 5:30~7:30 「まるっと! サタデー」
- ・6月6日 5:20~8:00 「THE TIME,」
- ・6月6日 15:50~19:00 「Nスタ」
- ・6月7日 4:00~4:40 「TBS NEWS」
- ・6月7日 10:25~13:55 「ひるおび」

[テレビ東京]

- ・6月3日 23:00~23:58 「WBS」

[公式サイト]

- ・富士スピードウェイ公式サイト : <http://www.fsw.tv/>
- ・ピレリスーパー耐久シリーズオフィシャルサイト : <https://supertaikeyu.com/>
- ・富士スピードウェイ公式facebook : <http://www.facebook.com/fsw.tv>
- ・富士スピードウェイ公式twitter : <http://twitter.com/#!/fswpress>

SPECIAL SPONSOR REPORT

2022年で5周年を迎えた、富士SUPER TEC 24時間レース、2020年より3年連続でNAPAC様（一般社団法人日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会）に大会冠協賛をいただきました！



NAPACとは「一般社団法人日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会」の略称。クルマのアフターパーツを製造・販売しているメーカーが153社が加入している団体です。NAPACはクルマを大掛かりにチューニングするというより性能を向上させる「ファインチューン」を理念に掲げており、市販車に近い車両でレースに参戦するスーパー耐久と共通する部分があること、また富士SUPER TEC24時間レースを地域のお祭りとして根付かせていくとの考えに共感し本大会にご協賛いただきました。



◆事前PR

大会の開催にあたり富士スピードウェイ公式HPや公式SNSでの事前告知、プレスリリースを配信いたしました。



◆6月5日発信Twitter



◆5月20日発信 Twitter



◆4月20日配信「プレスリリース」

◆各種プロモーションのご紹介

◆NAPACブース

NAPAC会員企業様にご出展いただき、イベント会場を盛り上げていただきました。会員企業様の様々な商品が並ぶ中、シートやホイール、タイヤ、工具など、アフターパーツ・チューニングパーツメーカー様が自社製品のPRや販売等を行い、ご来場いただいたお客様にNAPAC会員企業様の高品質なパーツを実際に手にとって触れていただくことで製品をPRしていただきました。



◎ご出展企業様ご紹介

株式会社ウエッズ様/株式会社エイチ・ピー・アイ様/エムケーカシヤマ株式会社様/株式会社エンドレスアドバンス様
小倉クラッチ株式会社様/株式会社オートボックスセブン様/TONE株式会社/BBSジャパン株式会社様/ブリッド株式会社様
藤壺技研工業株式会社様/株式会社モンツァジャパン様/横浜ゴム株式会社様/株式会社ラブラーク様

◆GIRLS CAR COLLECTION

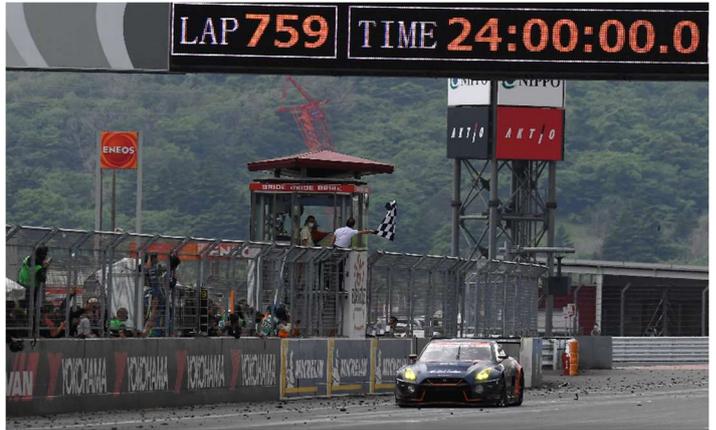
クルマ好きの女性メンバー自慢の愛車を展示していただき、レースの盛り上げに一役買っていただきました。「GT-R」「スープラ」「ハイエース」「WRX」などこだわりのカスタムが施された車種、10台を展示。また、展示車両の人気車投票やNAPACステージでのトークショーにも出演いただきイベントを盛り上げいただきました。



SPECIAL SPONSOR REPORT

◆チェッカーフラッグ

昨年に引き続き、チェッカーフラッグをNAPAC会長の高瀬嶺生様（ブリッド株式会社代表取締役社長）にご担当いただきました。24時間レースのゴールを告げるチェッカーのシーンは1Dayで行われるレース以上に注目が集まります。24時間レースの終了を告げる大役を担っていただき、レースに華を添えていただきました。



◆NAPAC賞

NAPAC ASEA事業部モータースポーツ委員長、柳田春人様（株式会社セントラル）より、総合優勝の#62 HELM MOTORSPORTS GTR GT3に「NAPAC賞」である賞金100万円ボードが贈呈されました。



◆公式プログラム 広告ページ

レース毎に発行している公式プログラムに広告を1ページご掲出いただきました。公式プログラムはレースの出場ドライバーやチームの紹介に加え、イベントのインフォメーションを掲載。更には5周年を迎えた今大会での過去の振り返りなど、レースを楽しむために欠かせない1冊となっております。

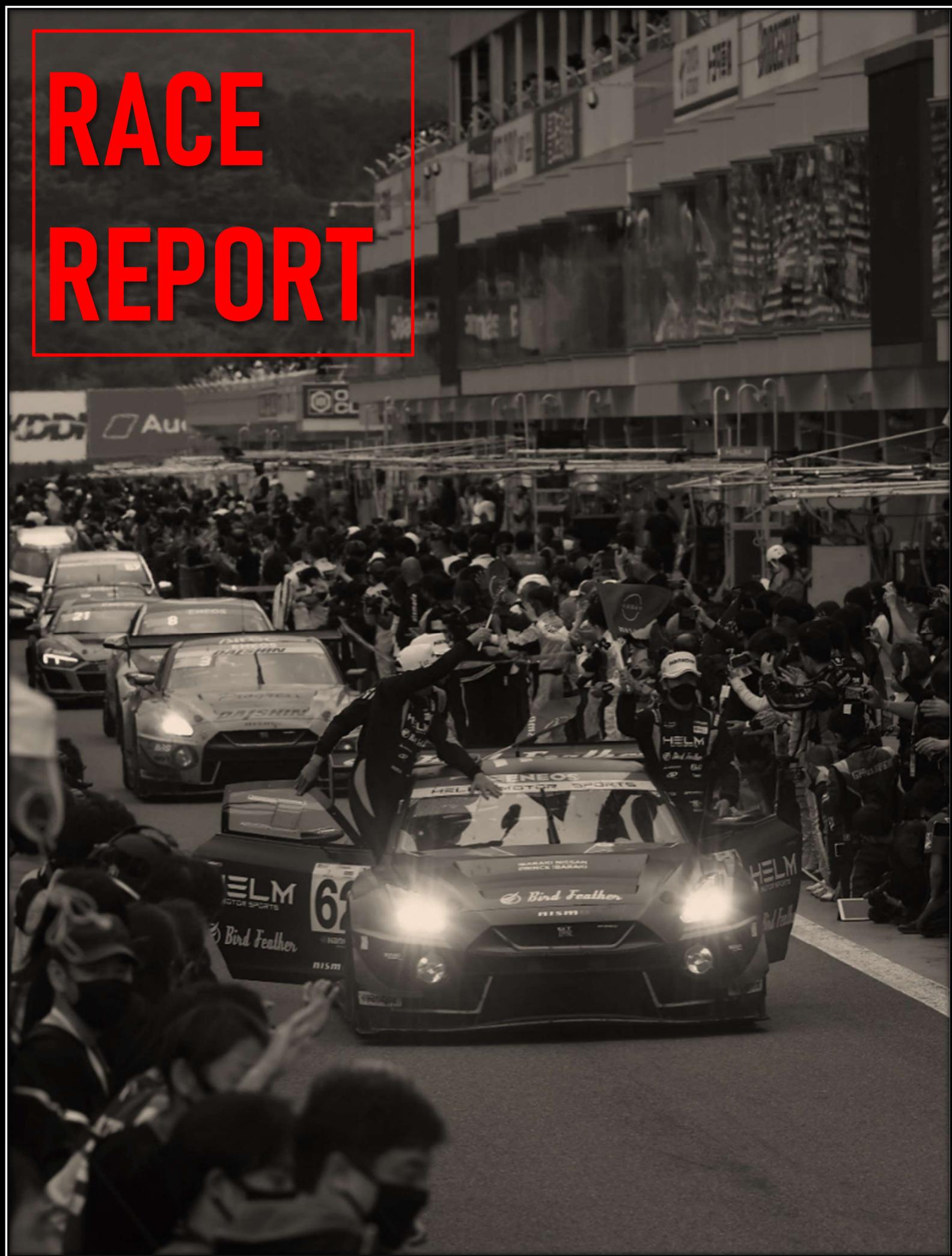


◆NAPAC加盟企業 FSWスポンサー企業のご紹介

当サーキットにはNAPAC加盟企業様に広告看板を数多くご掲出いただいております。このページでは当社にご掲出いただいているNAPAC加盟企業様をご紹介します。



RACE REPORT



RACE REPORT

◆QUALIFYING RESULT

2022年の富士SUPER TEC 24時間レースでは過去最多となる、今回は過去最多となる9クラス全56台のマシンが参戦。予選のスタートは12時。天候は曇ではあるもののAドライバーとBドライバーの合算タイムで争われる公式予選の幕が開けました。

Aドライバーのトップを記録したのは#888 Grid Motorsport AMG GT3。その後のBドライバー予選では、#DAISHIN GT3 GT-Rがトップを奪うもののAドライバー、Bドライバーの合計タイムで上回った#888 Grid Motorsport AMG GT3が総合ポールポジションを獲得しました。

各クラスのポールポジション車両の紹介

ST-X クラス
Grid Motorsport AMG GT3



ST-1 クラス
シンティアム アップル KTM



ST-Q クラス
ENDLESS AMG GT4



ST-Z クラス
SZIGEN AMG GT4



ST-TCR クラス
Team Noah HONDA CIVIC TCR



ST-2 クラス
**新菱オート☆夢住まい館☆
DXL☆EVO10**



ST-3 クラス
埼玉トヨペット GB クラウン RS



ST-4 クラス
TOM'S SPIRIT GR86



ST-4 クラス
TOM'S SPIRIT GR86



RACE REPORT

◆ FINAL REPORT

会場の緊張と熱気がピークに達した午後3時、今年で4回目の開催となる「NAPAC 富士SUPER TEC 24時間レース」がいよいよスタート！ドライコンディションのなか9クラス全51台が綺麗にスタートしました。24時間後「耐久の富士」で栄冠を掴むのは誰か、注目が集まります！



総合優勝を賭けてレースを争うST-Xクラスはポールスタートの888号車が好スタートを決めました。1周終了時点で2位の#62号HELM MOTORSPORTS GTR GT3におよそ2秒の差をつけます。その後は141周目に888号車を62号車をかわして総合トップに躍り出ます。スタートから大きなアクシデントなく、レースは順調に進んではいきましたが、149周目に2022年の富士24時間初のフルコースイエロー（FCY）が導入され、その後ストップ車両の回収のためセーフティカー（SC）に切り替えられました。



レースは8時間を経過し、迎えた18時45分からのナイトセッションでも62号車と888号車の同一周回での争いは続いていきます。しかし280周目、62号車にドライバー連続運転時間違反との裁定が下され180秒のペナルティストップが科されてしまいます。富士24時間では各ドライバーが運転できる最大時間が3時間と決まっており、ショーン・トン選手のドライブ中にこれに違反してしまったことが原因でした。これでトップ争いは888号車と81号車DAISHIN GT3 GT-R一騎打ちとなっていきます。しかしFCY直前のタイミングでピットに入り差を縮めた81号車が、300周目に888号車を捉えて総合トップに浮上します。

4時半を迎えたころ富士スピードウェイは日出を迎えます。81号車は2番手の62号車に3周差をつけてレースを支配し始めていきます。しかしレース残り3時間30分迎えた頃、ルーティンピット作業を完了した81号車のエンジンが掛からなくなってしまいます。GT-Rはガレージに仕舞われ。メカニックたちが必死に修復を試みるもすぐにエンジンは掛からず、そして62号車が3周差を逆転して総合トップを奪還します。81号車はその後888号車にも逆転され3番手に順位を落としてしまいます。81号車は、レース残り2時間53分で修復が完了しコースに出ていく。しかし、修復作業は12分58秒にもおよび、レースに復帰した時点でトップの62号車とは19周と大きな差がついてしまう形となりました。



レースは残り30分を切り、再び18号車がTGRコーナー先でマシンを止めたため今大会11度目のFCYが宣言となります。レースは残り20分というスプリントで再開され総合トップの62号車湧也はその後安定してマシンをチェッカーまで運びます。最終的に760周を走り切ってトップでフィニッシュ。HELM MOTORSPORTSがST-Xクラス移行2戦目にして24時間レースの頂点を掴み取りました。2位には888号車が3位には81号車が続く結果となりました。



◆各クラスのレース結果の紹介

ST-Z



GT4規格マシン7台で争われるST-Zクラスは、レース序盤にトップに立った#22 PORSCHE 718 Cayman GT4 RS CSが独走する速さと安定性をみせるも、夜明け後のドライブ中にウォーターポンプのトラブルに見舞われエンジンがオーバーヒート。レース中に修復ならずリタイヤになります。これにより同一周回で粘り強くレースを続けていた#500 5ZIGEN AMG GT4がST-Zクラスを制しました。

ST-1



4台が参戦したST-1クラスは、レースの大半を#2シンティアム アップル KTMが制しました。レース中にはピット作業違反でのペナルティストップ60秒が科せられてしまいますがトップをキープする速さをみせつけます。総合でも4位に入りクラス優勝も果たしました。

ST-Q



メーカーの開発車両が7台エントリーしたST-Qクラスはクラスポールからスタートした#3 ENDLESS AMG GT4が24時間を通して独走を見せます。結果的にST-Zクラスのトップを上回る総合6位で24時間を走り切りました。

ST-TCR



2台のホンダ・シビック・タイプR TCRの直接対決となったST-TCRクラスは、スタートから徐々に#75 Team Noah HONDA CIVIC TCRが#97 Racer HFDP CIVICを引き離します。最終的に77周差をつけて75号車がST-TCRクラスを制しました。

ST-2



ST-2はレース序盤から#13 ENDLESS GRヤリスがトップに立ちリードするものの、レース開始から17時間が経過したタイミングで緊急ピットイン。その結果2番手につけていた#225 KTMS GR YARISが首位に立ち、チェッカーを受けクラス優勝を飾りました。

ST-3



2台のホンダ・シビック・タイプR TCRの直接対決となったST-TCRクラスは、スタートから徐々に#75 Team Noah HONDA CIVIC TCRが#97 Racer HFDP CIVICを引き離します。最終的に77周差をつけて75号車がST-TCRクラスを制しました。

ST-4



ST-4はニューマシンの#86 TOM'S SPIRIT GR86がスタートから独走態勢を築き、#884 シェイドレーシング86や#18 Weds Sport GR86を寄せ付けず24時間を走り切りクラス優勝を果たしました。

ST-5



14台が参戦し最も参加台数が多いクラスとなったST-5クラスは、スタートから37分経過時にトップに立った#17 DXLアラゴスタNOPROデミオが627周を走破してクラス優勝を達成しました。

◆各クラス決勝リザルト

クラス	順位	No.	エントラント	ドライバー
ST-X	1	62	HELM MOTORSPORTS	鳥羽豊/平木湧也/平木玲次/ショウン・トン
	2	888	Grid Motoraport	マーティンベリー/高木真一/黒澤治樹/山脇大輔
	3	81	GTNET MOTORSPORTS	大八木信行/藤波清人/青木孝行/阪口夏月/
ST-Z	1	500	TEAM 5ZIGEN	大塚隆一郎/太田格之進/金石年弘/木村偉織
	2	885	SHADE RACING	HIROHAYASHI/平中克幸/清水英志郎/新田守男/中山友貴
	3	21	Audi Team Hitotsuyama	本多秀郎/宮田莉朋/神晴也/阿野雄紀/藤井優紀
ST-TCR	1	75	Team Noah	塚田利朗/藤武善和/J/金丸ユウ/三浦康司/清瀧雄二
	2	97	M&K ホンダカーズ桶川Racing	遠藤博光/中野信治/西村和真/三井優介/小出峻
ST-Q	1	3	ENDLESS SPORT	小河諒/菅波冬悟/川端慎太郎/谷岡力
	2	244	Max Racing	田中哲也/田中徹/三宅淳嗣/高星明誠/安田裕信
	3	61	Team SDA Engineering	井口卓人/山内英輝/廣田光一/鎌田卓麻/吉田寿博
ST-1	1	2	KsフロンティアKTMカーズ	井田太陽/加藤寛規/吉本大樹/小林崇志/高橋一穂
	2	47	D'station Racing	星野辰也/織戸学/浜健二/近藤翼/松浦孝亮/J.パーソンズ
	3	8	ピーエムダブリューチームスタディ	木下隆之/砂子塾長/大井貴之/小澤弘毅/東風谷高史
ST-2	1	225	KTMS KOBETOYOPET MOTOR SPORTS	平良響/荒川麟/奥住慈英
	2	13	ENDLESS SPORT	伊藤黎明/石坂瑞基/花里裕弥/岡田整
	3	59	TOWAINTEC Racing	大澤学/後藤比東至/安岡秀徒
ST-3	1	52	埼玉トヨペットGreen Brave	服部尚貴/吉田広樹/川合孝汰/地頭所光
	2	39	TRACYSports with DELTA	富林勇佑/伊藤鷹志/石井宏尚/大滝拓也/水野大/宮下源都
	3	63	TRACYSports	堀田誠/阪口良平/阪口晴南
ST-4	1	86	TOM'S SPIRIT	河野駿佑/松井孝允/山下健太
	2	884	SHADE RACING	石川京侍/国本雄資/山田真之亮/影山正彦
	3	60	TEAM G/MOTINO'	瀬戸貴臣/塩谷烈洲/松波太郎/中村ひかる
ST-5	1	17	TEAM NOPRP	吉岡一成/大谷飛雄/上松淳一/西澤嗣哲/山本浩朗/野上敏彦
	2	104	広島マツダ HM Racers	吉田綜一郎/佐々木孝太/妹尾智充/大崎悠悟/吉田隆之介
	3	66	OVER DRIVE	武地孝幸/貫戸幸星/猪俣京介/岡本大地/高崎保浩/上野大哲



MANUFACTURER'S CHALLENGE REPORT

カーボンニュートラル実現のため各メーカーがST-Qクラスに車両を投入！

今大会、各メーカーがカーボンニュートラル実現のためトヨタ、日産、スバル、マツダの各社がST-Qクラスに参戦し大きな話題を呼びました。昨年、世界初となる水素燃料でレースに参戦した「ORC ROOKIE GR Corolla CNF Concept」は昨年に続き2年連続で参戦。GR86で参戦の「ORC ROOKIE GR86 CNF Concept」、スバルの「Team SDA Engineering BRZ CNF Concept」、nismoの「Nissan Z Racing Concept」はカーボンニュートラル燃料を使用した車両で参戦。ディーゼルエンジンを搭載した「MAZDA SPRIT RACING MAZDA2 Bio concept」はバイオディーゼル燃料を使用する参戦となりました。



◆7月1日発行『Car GRAPHIC』



◆6月8日発行『日刊自動車新聞』



◆6月6日放送『FNN News Live a』

●各車両のご紹介

ORC ROOKIE GR86
CNF Concept



MAZDA SPRIT RACING
MAZDA2 Bio concept



ORC ROOKIE GR Corolla
H2 Concept



NISSAN Z Racing Concept



Team SDA Engineering
BRZ CNF Concept



NISSAN Z Racing Concept



●レース結果

大きな注目を集めた各車ですが、大小のトラブルと戦いながら結果はそれぞれ異なることとなりました。「ORC ROOKIE GR Corolla H2 Concept」は昨年の358周から478周と周回数を大きく伸ばし1年での進化を見せつけました。カーボンニュートラル燃料を使用するGR86は609周を走破。兄弟車でもあるBRZはそのGR86の上を行く624周を走りレースを終えました。NISSAN Zの2台の内244号車はパンクなどのトラブルに見舞われつつも総合10位でフィニッシュ。カーボンニュートラル燃料を使用した230号車はトラブルに見舞われながらも502周を走り切りました。残念ながらマツダは残り1時間のところでリタイヤで完走にはならずという結果に終わりました。

富士SUPER TEC 24時間レースへの各メーカーの参戦は雑誌、新聞、SNSなどだけではなく、地上波のニュース番組など非常に多くのメディアから注目を集めました。カーボンニュートラル実現のため未来のモータースポーツ像を作っていく、各社の取り組みに今後も注目です。

EVENT REPORT

◆「ゆるキャン△×FUJI SPEEDWAY」コラボレーションイベント第3弾

昨年の5月「富士SUPER TEC24時間レース」で初開催し大きな話題となった、「ゆるキャン△」と富士スピードウェイのコラボイベントが24時間レースに帰ってきました。第3弾となった今回のイベントでは、恒例となった富士スピードウェイ限定オリジナルデフォルメイラストの新作がお披露目。更には7月1日（金）に公開された映画「ゆるキャン△」のティザーイラストパネルが展示された他、オリジナルデフォルメイラストの等身大パネルが設置された特設Photoスポットの設置に加え、GRヤリスオリジナルラッピングカーの展示もされました。更には「ゆるキャン△FUJISPEEDWAY」のコラボレーショングッズの新作として、サーモマグカップ、カーサイン、シエラカップ、メスティン、ポケットトートバッグが数量限定で販売されました。第3弾となった今回のコラボイベントも盛り沢山となり、会場にいる多くの方にお客さまにお楽しみ頂きました。

オリジナルデフォルメイラスト



GRヤリスオリジナルラッピングカー



ティザーイラストパネル展示



等身大パネル特設Photoスポット



●「ゆるキャン△」とは？

静岡県や山梨県周辺を舞台に、キャンプ場でのレクリエーションや野外調理などのアウトドアの魅力と、それを満喫する女子高生たちのゆるやかな日常を描く漫画。テレビアニメの第1作が2018年1月～3月、第2作が2021年1月～4月において放送されました。2020年にはドラマ化もされ、2022年7月には劇場版映画が公開された大人気のシリーズです。

コラボレーショングッズ

カーサイン



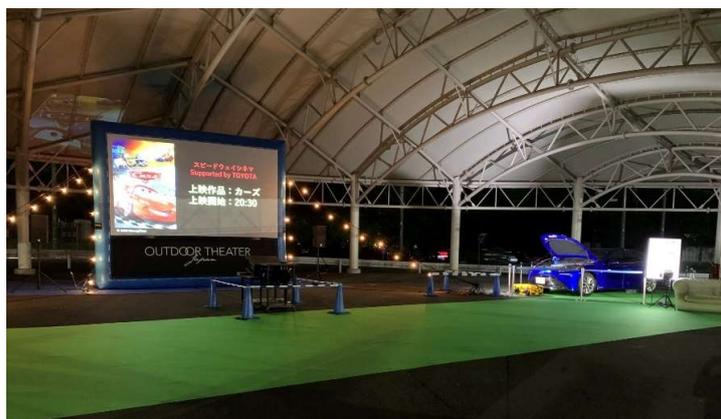
シエラカップ

メスティン

サーモマグカップ



◆スピードウェイシネマ Supported by TOYOTA



恒例となった野外映画館、屋外映画館「スピードウェイシネマ Supported by TOYOTA」を今回も開催しました。映画は水素で走る燃料電池車MIRAIから電気を給電し上映を実施。今回は2006年に公開されたディズニーの人気作品「カーズ」を上映。映画をご覧いただいたお客様は、キャンプチェアを持ち込んだりするなど、大人から子どもまで映画をお楽しみいただきました。

◆FSWスカイクルーズ



FSWスカイクルーズはヘリコプターに乗り、富士スピードウェイのコースを空からレースを観戦する今大会で初登場のイベントです。フライト時間が3分のサーキット場を1周するコースを始め、5分のサーキットを2周するコース、10分間の山中湖を周遊するコース、20分の箱根上空を周遊するコース、30分の富士五湖を遊覧するコースなど表情の異なる5プランを用意。ご参加いただいたお客様に普段は体験できない特別な体験を提供することができました。

◆BBS試乗会



ジムカーナコースではホイールメーカーのBBS様による試乗会を開催。純正ホイールと、BBS鍛造ホイールを履いた同一車両に乗って、その違いを体感することができます。世界のレースシーンでも活躍する、BBS鍛造アルミホイールの「履き心地」を体感するため、多くのお客様がジムカーナコースを訪れました。

◆カーボンニュートラルに実現へ向けた取り組みの展示



カーボンニュートラル実現のため様々な取り組みを来場者への発表場としてトヨタ自動車を始めとした各社がイベント広場へブースの出展をしていただきました。カーボンニュートラルを実現するための様々なモビリティ展示、水素エネルギーを学ぶことができる「水素エネルギー館」や子供も楽しむことができる「水素キッズパーク」など出展いただき、各メーカーの取り組みの発表の場として活用いただきました。

◆ CHILLOUT BASE 2022



P16駐車場では24時間レースをゆったり楽しめるスポット「CHILL OUT BASE」が今大会も開催。足湯や焚火、DJブース、飲食ブース、お子様も楽しいワークショップ、スマホ充電サービス、大型ビジョンでのレース中継など、ご来場いただいたお客様には24時間レースをゆるやかに楽しんでいただきました。

◆ EL CAMION「移動型クラフトビアバー」



昨年に続き、「移動型クラフトビアバー」EL CAMIONに富士スピードウェイへ再びご出展をいただきました。4種のクラフトビールの飲み比べやコーヒーやレモネードなどのソフトドリンクなどをご提供いただきました。土曜日は夜23時までオープンしていたことから、クラフトビールを片手に夜のレースを楽しむお客様が多くいらっしゃいました。

◆ アクティオ働くクルマ



今回の富士SUPER TEC 24時間レースでも、恒例となったイベント「アクティオ 働くクルマ」がイベント広場で開催。クレーン車やブルドーザー、ロードローラーなどの働くクルマの展示がされました。ご参加いただいたお客様は乗車体験や運転席での記念撮影など大人から子どもまで多くの方にお楽しみいただきました。

◆ 熱気球係留飛行体験



上空約15mの高さからレースを楽しむことができる熱気球係留飛行体験を昨年に続き実施いたしました。早朝の日が昇っていく中での飛行や暗くなった夜間の飛行は24時間レースでしか味わうことができない特別な体験を参加したお客様にご体験いただきました。

SPONSORSHIP REPORT

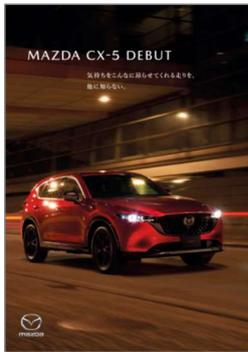
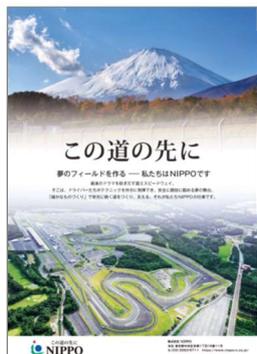


OFFICIAL PROGRAM・BANNER REPORT



国内発行部数トップの自動車雑誌『ベストカー』監修のもと、公式プログラムを発行いたしました。レース観戦では見逃すことのできないドライバーやマシンの情報掲載はもちろん、ベストカー本誌でも馴染みの「アポなし電話相談室」も掲載。また、今大会はFUJI SUPER TEC 24時間レースの5周年になるためレースの5年分のレースを振り返る特集を掲載いたしました。他にもイベント情報やサーキットの情報など読むとより一層サーキットを楽しむことができる一冊へと仕上がっております。サーキットの来場者への販売、特別室のゲストへ配布など非常に多くの方に手に取っていただきました。

◆公式プログラムご協賛企業



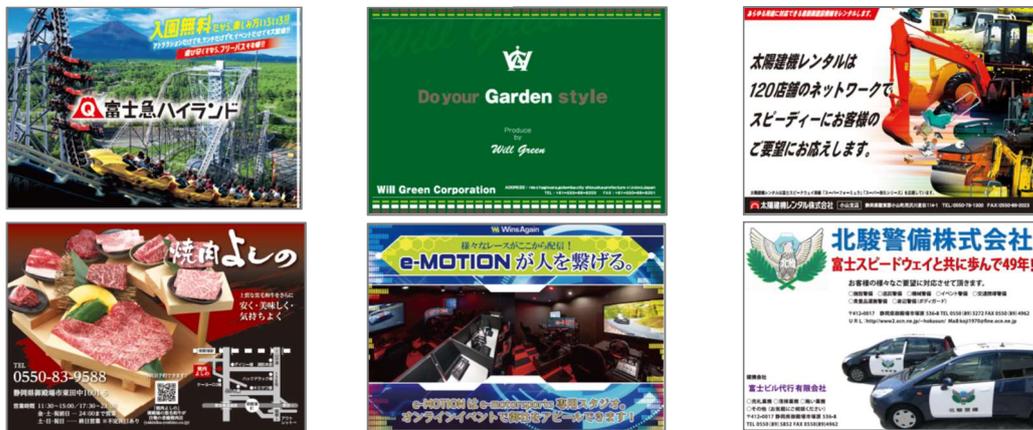
トヨタ自動車株式会社様 / 株式会社NIPPO様 / トヨタ不動産株式会社様 / 株式会社レイズ様
 一般社団法人日本自動車用品・備品アフターマーケット振興会 / ブリッド株式会社様 / マツダ株式会社様
 フリュウ株式会社様 / 株式会社ニルズ様 / 東京ガレージ株式会社様
 株式会社エンドレスアドバンス / 様藤壺技研工業株式会社様

◆特集広告ページご協賛企業様



株式会社デザインラボ PPF Shop様／SYMS RACING様／アストロプロダクツ様
PARTS.CO.JP株式会社様／株式会社ジェイシーディープロダクツ様

◆地元特集ページご協賛企業様



富士急行株式会社様／ウィルグリーン株式会社様／太陽建機レンタル株式会社様
株式会社フィットコーポレーション様／株式会社ウインズアゲイン様／北駿警備株式会社様

◆ハンコックタイヤジャパン様バナー広告

コカ・コーラコーナー



GR Supraコーナー立ち上がり



今シーズンスーパー耐久シリーズヘタイヤ供給をしている「ハンコックタイヤ・ジャパン様」にレーシングコースの2カ所にバナー広告のご掲出をいただきました。

HOSPITALITY REPORT



HOSPITALITY REPORT

ピットビルA棟に位置する「クリスタルルーム」「クリスタルテラス」は富士スピードウェイが誇るメインストレートを一望することができる位置にあります。今大会ではチーム様のスポンサー招待し夜間や朝方でも快適にレースを観戦することができるホスピタリティエリアとして、またメディア用としてご利用いただく企業様、それ以外チーム関係者の控室としてご利用いただくなど、ご利用いただいた各企業の目的に応じた形でお部屋をご利用いただきました。

◆クリスタルルーム・クリスタルテラス

トヨタ自動車株式会社様



ビー・エム・ダブリュー株式会社様



MAZDA株式会社様



株式会社ニルズ様



株式会社SUBARU様



株式会社セブン様



林テレンプ株式会社様



◆クリスタルルーム



プラチナルームご利用企業様

藤壺技研工業株式会社様 / 株式会社イー・ピー・アール様 / 三友商事株式会社様 / 株式会社セブン様
トヨタツーリストインターナショナル株式会社 / 一般社団法人日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会様 /

◆パドックスイート



パドックスイートご利用企業様

トヨタ自動車株式会社様 / ケイツープラネット株式会社様 / 株式会社エーエスレーシング様 / Kingelt株式会社様
株式会社アドヴィックス様 / BOWWOW株式会社様 / 株式会社イー・ピー・アール様 / 株式会社エンドレスアドバンス様
埼玉トヨペット株式会社様 / 株式会社セブン様 / 株式会社ニルズ様 / NEXUSホールディングス株式会社様

◆トヨタ自動車株式会社 広報部様



トヨタ自動車広報部様に「グリーンファイト100R 芝生エリア」で専用観戦エリアを設置いただきました。ご招待したメディア関係者に24時間レースの楽しみ方を知っていただくためにBBQを開催。おもてなしをしながらレースの楽しみ方を知っていただける機会となりました。

◆トヨタ自動車株式会社 トヨタタイムズ様



トヨタ自動車トヨタタイムズ様に「グリーンファイト100R 芝生エリア」でトヨタタイムズ YouTube ライブの放送をするための拠点のひとつとしてご利用いただきました。当日はトヨタヴェルブリッツに所属しているラグビー選手も出演者として参加しライブ配信を通じてレースを盛り上げていただきました。

◆林テレンプ株式会社 様



林テレンプ株式会社様に「Cパドック芝生エリア」をご活用いただき、従業員やシェイドライシング関係者のご家族向けの専用観戦エリアとしてご利用いただきました。応援に駆け付けた社員やチームのご家族様にはキャンプやBBQを思い思いのスタイルでお楽しみいただきました。

MEDIA REPORT



MEDIA REPORT

レース結果としての記事だけではなく、新型Zを始めとして各メーカーが参戦しST-Qクラスのカーボンニュートラル車両のレポート記事、イベントのレポート記事など多くの媒体に富士SUPER TEC 24時間レースが取り上げられました。各媒体、それぞれ異なる角度の内容が取り上げられており、富士SUPER TEC 24時間レースが通常のレースにはない多方面から注目を浴びているということが伺えます。

◆雑誌

◆『auto sport』6月29日発売



◆『driver』7月20日発売



◆『ベストカー』6月24日発売



◆『カーグラフィック』7月1日発売



◆TV番組

●『ワールドビジネスサテライト』テレビ東京 6月3日放送



●『FNN Live News α』フジテレビ 6月5日放送



●『とびきり! しずおか土曜版』静岡朝日テレビ 5月28日放送



●『SATVニュース』静岡朝日テレビ 6月5日放送



●『Nスタ』TBS 6月6日放送



●『まるっと! サタデー』TBS 6月6日放送



◆新聞記事

●東京中日スポーツ 「6月6日発行」



●日刊工業新聞 「6月7日発行」



●日刊自動車新聞 「6月8日発行」



●読売新聞 「6月5日発行」



◆WEB記事

オートスポーツweb 6月7日 (火)



ベストカーweb 5月21日 (土)



Response 6月6日 (月)



Car Watch 6月5日 (日)



WEBカートップ 6月9日 (月)



朝日新聞 6月3日 (金)



GAZOO.com 6月5日 (日)



motorsport.com 6月5日 (日)



モータースポーツチャンネル 6月7日 (月)



Autoprove 6月6日 (日)



AUTO CAR JAPAN 6月7日 (火)



RACING Japan PRESS 6月5日 (日)



SNS RESEARCH REPORT

地下通路 入口

KINTO



SNS RESEARCH REPORT

今大会の「NAPAC 富士SUPER TEC 24時間レース」において、お客様の声を吸い上げるためTwitterにおける投稿内容の調査を実施いたしました。今大会は「水素エンジンカローラ」という話題となるトピックがあったことから、昨年と比較して各項目ともに投稿数が大きく増加する結果となりました。

Twitter投稿調査

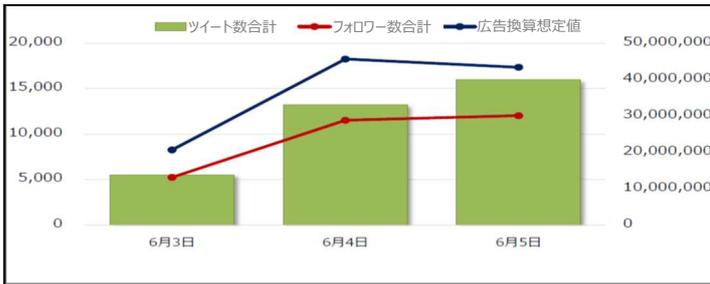
- 調査対象：ハッシュタグ2種類の投稿のすべて（写真の有無に限らず）
 - ① #S耐 ② #富士24時間
- 調査日程：2022年6月3日（金）～2022年6月5日（日）の3日間
- 方法：期間内すべての投稿の中から「いいね数」「リツイート数」を算出

① #S耐

「#S耐」の結果を投稿日別に「投稿件数」「フォロワー計」「広告換算想定値」も項目で表示

投稿日	投稿件数	フォロワー計	広告換算想定値
6月3日	5,498	13,079,345	¥20,626,739
6月4日	13,230	28,770,902	¥45,603,021
6月5日	15,967	30,040,928	¥43,335,839
総計	34,695	71,891,175	¥109,565,599

◆ 上記表をグラフ化



◆ 一部投稿のご紹介

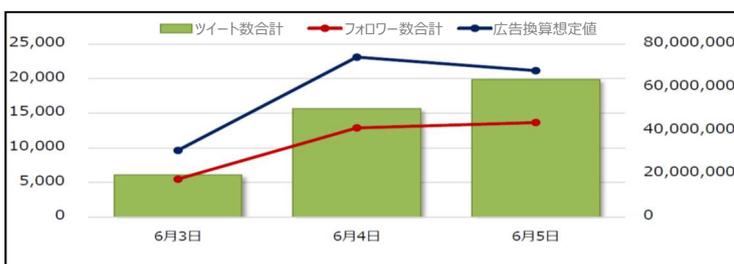


② #富士24時間

「#富士24時間」の結果を投稿日別に「投稿件数」「フォロワー計」「広告換算想定値」も項目で表示

投稿日	投稿件数	フォロワー計	広告換算想定値
6月3日	6,073	17,546,760	¥30,837,783
6月4日	15,641	41,243,119	¥73,924,572
6月5日	19,900	43,697,563	¥67,673,989
総計	41,614	102,487,442	¥172,436,343

◆ 上記表をグラフ化



一部投稿のご紹介



